

2016年11月16日東となみロータリークラブ 卓話 「ロータリーデー」

東となみロータリークラブ 会長 山本武夫

1. はじめに「ロータリーとは」

20世紀の初頭のシカゴの街には、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。ちょうどそのころ、そこで事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人らと語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたいと、いう趣旨でロータリークラブという会合を考えました。1905年2月23日、シカゴロータリークラブが誕生、それ以来、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を越え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数35000余、会員総数123万余に達しています。これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んじる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々まで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動(国際奉仕・社会奉仕・職業奉仕・クラブ奉仕・青少年奉仕:5大奉仕)を求められるようになり、現在は多方面に多大の貢献をしています。

そのうちの一つ、ロータリー財団は「世界に良いことをしよう」と歴史を積み重ね、今年100周年を迎えます。

2. 日本のロータリー

わが国最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌年4月1日に世界で855番目のクラブとして国際ロータリーに加盟が承認されました。第2次世界大戦の波に洗われて、一時脱退しますが1949年再び復帰、現在日本全体で、2265クラブ、87377名の会員(2016年6月末現在)となっています。日本のロータリー財団への貢献も抜群ですが、中でも日本独自の米山奨学会は、世界最大の奨学金制度で、多くの外国人留学生のために役立っています。

3. ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある：具体的には、次の事項を奨励することにある：

(第1) 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること：

(第2) 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること：

(第3) ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること：

(第4) 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト 言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

4. 東となみロータリークラブ

当クラブは、昭和54年に井波・庄川町を領域として、井波庄川ロータリークラブとして創立、平成16年11月には市町村合併にて、砺波と南砺の2つの新市にまたがるクラブとなりました。その後、平成22年に名称を現在名に変更し、2年後には40周年を迎えます。現在会員21名の小さなクラブですが、うち女性会員は3名です。わがクラブはまた、家族会で団結しております。毎年、11月「秋の家族旅行」、12月「クリスマス家族例会」、4月「家族観桜例会」を行っています。家族同士の絆を深めることは、会員の団結を一層強固なものにします。創立30周年の記念事業として、庄川水記念公園に、地球環境保護の当クラブの基本姿勢を示す看板を設置しました。その看板には「水は命の源 美しいまま 海へ・・・」

と掲げました。この第3分区は、庄川水系のクラブの集まりです。東となみロータリークラブは、その最も上流に位置します。創立以来、社会奉仕活動で「ごみゼロ運動」を実施してきました。ゴミを拾う運動から、近年はゴミを出さないよう啓蒙する運動へ転換していかねばならないと考えています。また、上流にある地域は環境保護などの責任があります。きれいな水で下流へと言えば森林、山が綺麗でなければなりません。「カシノナガキクイムシ」のために、ドングリのなる樹木が枯れ、そのために山に住むクマの食糧が亡くなり、人里への被害も出ました。当クラブでは、ミズナラなどの植樹で「南砺の山々を守る植樹」の運動にも協力しています。

5. ロータリーと私

水といえば、当クラブの「いい歯のキャンペーン」活動も関係があります。むし歯予防といえば、フッ化物による方法が一番優れています。特に水道水フッロリデーションは、人類が自然から学んだ英知の所産と言われていています。70-80年くらい前に、丁度良いフッ化物濃度の水を飲んでる人に、むし歯ができないという発見がされ、65年前から水道水のフッ化物濃度の調整が、アメリカ・カナダで始まりました。それから世界の多くの国で、むし歯予防には、フッ化物の応用が公衆衛生学的に優れた方法（誰でもどこでも、小さな努力で、確かな効果：みんなに公平で、安全で、経済的にも優れた方法）として認知され、利用されてきています。残念ながら、現在日本では、米軍基地以外では、この水道水フッロリデーションは実施されていません。次善の策として、学校・保育園などの施設でのフッ化物洗口や、うがいができない幼児や障害児などへのフッ化物歯面塗布が実施されて始めています。それも、まだまだ地域格差があり、県内でも、砺波地区は進んでいますが、高岡地区はまだまだ進んでいません。これは、将来、必ず健康格差を生じることになるでしょう。つまりは、この地域の住民は、むし歯が多く、この地域では少ない、そして、8020運動（80歳になっても20本以上の歯を保つ）でも提唱しているように、歯が多い人には健康な人が多いということから、地域による平均寿命の有意な差が出る可能性もあります。このために、私は、歯が残る源は、若いうちからのむし歯の予防や歯周病の予防と考え、特にむし歯予防には、もっと住民が効果的なフッ化物応用が受け入れられる必要があると考え、その地域に住むだけで、幼児からお年寄りまでみんなが公平に、むし歯予防の効果を期待できる水道水フッロリデーションを実現できるよう啓発普及の活動を訴えています。第3分区、2610地区さらには日本全体へ広がることを期待して活動をしています。個人的なことになりますが、私がロータリークラブに入会するきっかけになったのは、ロータリークラブとは「治療よりも予防を目指す」精神を持っていると誘われたことです。

「四つのテスト」はまさにむし歯予防にピッタリです。

「治療よりも予防」「ゴミを拾うより、出さないように」「ポリオ撲滅」などは、GO UP STREAM!!『上流に向かえ』と言う考えに基づきます。

私は、入会16年目ですが、1職業人として、その中に身をおき職業奉仕とは何かと考えるとき、ある先輩が教えてくれた「Public Health Mind」を持つ歯科医になれ、ということ思い出します。「みんなの健康は社会全体で、守ろう」この考えを私は、持ち続けたいと思います。

さて、2016-2017RIテーマは「人類に奉仕するロータリー」です。当2610地区の岡部ガバナーは、人類を読み変えて、地域の人々とおっしゃっています。つまり、地域に貢献できるよう、そのためにはクラブが元気になるよう、新しい仲間を増やすことが大事です。

本日の東となみロータリークラブのオープン例会「ロータリーデー」は、地域の皆さんにこのクラブの事を知って頂くことが目的です。是非、温かいご理解と御支援を賜りたいと存じます。